



禁煙ジャーナル

■発行人 一般社団法人 タバコ問題情報センター [代表理事・渡辺文学]

No. 366

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-1-4 九段セントラルビル 203

TEL : 03-3222-6781 FAX: 03-3222-6780

《郵便振替》00120-0-159803 【印刷】遠藤印刷 1 部 500 円

タバコ訴訟 カナダ裁判所 和解案提示 3.5 兆円でも禁煙団体は“反発” ～タバコ3社は受諾の方向か～

10 月 19 日の日本経済新聞が、「たばこ3社 3.5兆円和解案」と題して、カナダの裁判所が日本たばこ産業(JT)と米フィリップ・モリス・インターナショナル(PMI)、英ブリティッシュ・アメリカン・タバコに巨額の和解金を提示し、公聴会を経て和解が成立する見通しと報じた。この訴訟は、共通点を持つ一定範囲の人々(class)を代表して、一人または数名の者が、全員のために原告として訴えまたは被告として訴えられるという訴訟形態(集団訴訟<クラスアクション>)とされるが、「class」に属する者はタバコによる直接の被害者だけでなく、行政、禁煙団体、医学団体など多岐にわたっている。和解案提示後、タバコ会社は、①「当社とその利害関係者が将来の事業に集中できるようになることを期待」(PMI オルザック CEO)②「実行可能な和解案を見出すには、解決しなければならない問題がある」(JT)とコメントしている。

日経記事の末尾では「一部の団体は和解案に反発している。禁煙団体など3団体は『医療制度への多大な負担を引き起こした企業が、集団訴訟の歴史的敗訴から逃れることが許されるのか』と報じている。

そこで今回は、「反発」とはどのようなものなのか、プレスの発信情報を調べるなどして、「反発」の深掘りをする事とした。記事作成にあたり、渡辺南人氏に助言を頂いた。厚く御礼申し上げる。(編集部)

禁煙団体「反発」の中身とは

禁煙ジャーナル編集部

■はじめに

2024. 10. 18付日本経済新聞に「たばこ3社3.5兆円和解案」と題する記事が掲載された。そのなかで、禁煙団体が和解案に「反発」したとあるが、なぜ「反発」したのか。禁煙団体の主張の背景や問題の根源について深掘りをしてみたい。

■「反発」した禁煙団体

①ケベックタバコ規制連合(Quebec Coalition for Tobacco Control) = QCCT / ②喫煙と健康に関するアクション(Action on Smoking and Health) = ASH (Canada) / ③カナダ禁煙医師連盟(Physicians for a Smoke-Free Canada = PSC)

上記①の禁煙団体から発信された情報を受けた側は、以下の見出しをつけてアップしている。
Preliminary Reaction to Tobacco Settlement:
Provincial governments have squandered a
Unique and historic opportunity to put an end
to the Tobacco industry

「州政府はタバコ産業を終わりにする、またとない歴史的な機会を無駄にした」と。

■共同声明の要旨(重要箇所のみ)

- ①ケベック州やカナダのその他の地域の被害者やその子孫への補償を除けば、この合意(和解案)には公衆衛生上の利益はほとんどない。
- ②新たな被害者を発生させないための方策だけでなく、現に続く被害の拡大を防ぐための道筋も示されていない。
- ③魅力的なニコチン・ガジェット(電子タバコなど)を通じて新たな被害者を募ることになり、ニコチン中毒と被害の連鎖は、今後も続くだろう。
- ④州は公衆衛生向上の対策を何も変えようとすることなく、これまで通りタバコの売上によって得られる税収確保の道を選択した。
- ⑤訴訟の核心的部分は「企業行動の変革」にあるはずだが、州は意図的に巨大タバコ産業の「ビジネスモデル」を維持することに同意したようなものである。

⑥彼ら（州、準州）は恥じ入ることもなく、巨大タバコ産業が次世代に与える被害について「見て見ぬふり」をした。

こういった批判のほかに、「カナダ保健大臣」への批判もすさまじい。（以下）
…この件に関して、保健大臣はどこにいたのだろうか？なぜなら、この和解案に彼らが関与した形跡は残っていない。有能な保健大臣なら誰でも知っている事は、病気の発症を予防することが優先されるべきである。医療費に代えて、苦しみや死を避けることができるからだ。納税者はすでに、病気の治療費や保険料を負担しているので、治療費に賠償金を充てても新たな病気の患者を防ぐことはできない…

カナダ政府では、世界に先駆けてタバコ1本ごとに警告表示の印刷を義務付けたり、パッケージの警告表示の見直しなどの対策を強化している。しかし、保健大臣の関与がなかったことの責任はどこにあるのかは不明。

■325億カナダドル賠償の受益者

和解案には325億ドルの賠償金が含まれているが「そのうち247億ドルは州と準州に、41億ドルはケベック州の集団訴訟原告に、25億ドルはケベック州の集団訴訟の原告以外の個人への補償に、10億ドルは財団（*）に支払われる」とされている。
*（肺癌等の関連疾患の研究費用については、新たに設立される財団にタバコ会社が支払うべきとする原告の主張が認められている）

喫煙者に支払われる額よりも「州と準州」のほうがはるかに高い。にもかかわらず、反発がおきているのは、カネではなく「公衆衛生上の利益」を計るべき施策を、裁判所がタバコ会社にほとんど命じていなかったからとも言える。

一方「被害者やその子孫」とあるように、彼ら（特に存命中の被害者）にとっては、訴訟が長引けば補償を受ける機会は遠のくから、これを受け入れる心境になっていることは想像に難くない。実際に「早く訴訟を終わらせて賠償金を手にしたい」と受け止められる見解があった。（以下）
……原告は長い遅延に耐えてきましたが、今ではようやく「トンネルの終わりに光があり、補償を受けることになる」と彼は言いました。

集団訴訟のメンバーの多くは、タバコ会社から金銭を受け取る前に死亡したが、彼らの後継者、場合によっては後継者の後継者は補償を受ける資格があると彼は述べた。

「この物語は25年以上続いており、ルールはより包括的で被害者に拡大されています。そのため、もはや被害者とその直接の相続人だけでなく、相続人の相続人もいるので、これは朗報です」と、

ケベック州タバコ規制連合の共同ディレクター兼スポークスパーソンであるフローリー・ドゥーカスは述べています……

■公衆衛生上の利益を計るべき対策とは

- ①紙巻きたばこの段階的な廃止。
- ②2025年までに喫煙率を5%未満に減らすという連邦戦略目標を達成させる。
- ③タバコ会社が保有する社内文書の公開。
- ④タバコ会社の市場戦略に関する公的規制。

■おわりに

禁煙団体のほかに、カナダがん協会もタバコの消費削減を計る施策がなかったことを批判しているが、クラスをまとめる代表の意思に反映させるほどの力量はなかったとも言える。

1997年7月号の『禁煙ジャーナル』には「…一方の反タバコ陣営は、笑いが止まらない…歴史的に大変な意味を持つものだ」との記述がある。

だが、この訴訟は当初から補償を求める喫煙者と医療費回収を目指す州政府の思惑は一致していて、1997年の米タバコ訴訟のような「規制」は二の次にせざるを得ない、との空気があったと思われる。それは、内部の“風通し”の悪さを指摘する見解にも見られることから伺える。

なお、今回の報道に接して、マスメディアはもっと多面的な角度から報じる必要性を痛感する。

「カナダタバコ訴訟」に思う

弁護士 片山 律

私は2016年8月、韓国でのタバコ訴訟シンポジウムに参加した際、カナダにおける歴史的勝訴判決を得た訴訟の原告弁護団と夕食を共にした。

彼らの発表によれば、肺がん等の疾病罹患原告が16万2168名で請求額116億カナダドルに対して認容額が68億6000万カナダドル、および懲罰賠償90万カナダドル、依存についての原告が91万8218名で請求額92億カナダドルに対して認容額は懲罰賠償1億3100万カナダドルとのことであり、1998年に提訴し、17年間で235日の裁判期日、4万2000件以上の証拠、72人の証人、25人の専門家尋問を経て、2015年に多額の認容判決を得たと誇らしげに報告していた。

彼らがいかなる考えから和解に応じたのかは不明だが、判決からさらに9年を経ても、なお最終決着がつかない状況において、被害者やその遺族らの要求を受け入れたことも推認できる。

いずれにしても、同じ製品に関する訴訟を巡ってのカナダと我が国や韓国における現実との大きな隔たりを感じた。

【かたやま・りつ】

シチシンのモデル・リストへの登録について（WHOへの手紙）

このほど日本禁煙学会では、WHO必須医薬品専門委員会に宛てて「シチシン」のモデル・リストへの追加登録について作田学理事長が手紙を出しましたので、その要旨を紹介します。（編集部）

■喫煙関連疾患で8百万人が死亡

日本禁煙学会はニコチン依存の治療と禁煙に有効なシチシンのWHO必須医薬品モデル・リストへの登録審査に関して賛同する。

喫煙は予防できる病死と疾病を引き起こす最大の原因となっており、世界的に13億人の喫煙者が居るがその8割以上が中・小所得の国々に住む。喫煙の流行は下火になっていると言えるものの、全世界的な喫煙率は高く、年間およそ8百万人が喫煙に関連する疾患によって命を落としている。

ニコチンは神経に直接作用する強力な科学物質で、常習的な依存を作り出すとともに、若年層の喫煙への依存にも大きく寄与している。妊婦の喫煙は胎児や新生児への深刻な悪影響をもたらす。

喫煙は発癌・心疾患・肺疾患や結核を含む伝染病等多くの疾患の確率を高めており、HIVやサーズに感染している喫煙者は、非喫煙者の感染者と比較して重大疾患や死亡のリスクが高まる。

喫煙者の平均寿命は非喫煙者と比べて少なくとも10年は短くなっているが、半数の喫煙者は喫煙に関連する原因で死亡するという統計がある。

■禁煙すれば死亡率は大幅減

全ての喫煙者にとって、禁煙する事は短期的及び長期的健康を補完する利点がある。喫煙者による50歳における禁煙は喫煙関連死を半減させ、30歳における禁煙は非喫煙者と同様なレベルまでリスクを低下させる。禁煙後10年における発癌リスクは喫煙を継続している者に比べて半減する事が明らかになっており、同15年後にはそのリスクは生涯非喫煙者と同じになる事が分かっている。

また、一酸化炭素を含む毒性の高い喫煙習慣の禁煙後数時間から数週間、更に数か月経過すると段階的に、咳と息切れの頻度の低下が観測され循環器と肺機能の向上が見られる。

■禁煙願望持っている喫煙者

現在喫煙している者が禁煙しない限り、全世界的なタバコ病に関する目標の達成は出来ない。事実、多くの喫煙者には禁煙したい欲求がある事が報告されている。世界成人タバコ統計によると、6割以上の喫煙者は禁煙することを望んでいるという意味を表明していて、実際に4割以上が過去に禁煙を試みている。しかしながら、補助薬や禁

煙サポート無しでは、4パーセントしか禁煙に成功していない。世の中には依存症としてのタバコの使用からの脱却は、依存を断ち切る薬物や認知行動療法による医療行為によって離脱を図るべきだといった理解が生まれてきている。

さらに禁煙はタバコ病に対する主要な対策の一つとして WHOのMPOWER主要案件の中で提案されているが、WHOたばこの規制に関する枠組条約の第14条もその旨を謳っている。

■費用対効果が高いシチシン

しかしながらWHOは、2019年にレポートの中で禁煙補助に関しては最も推進の遅れている分野だと指摘しているが、23か国が禁煙補助の対策についての措置を取っているだけであり、それらの大半が先進国である。本件に関してまだ出来ることは多く残っており、シチシンをWHO必須医薬品モデル・リストに追加登録することは世界レベルと国家レベルにおける持続可能な喫煙対策についての有効な手段と成り得る。

シチシンは、キングサリ草とマメ科の植物に見られる植物性のアルカロイド化合物で、1960年代半ばから中央・西ヨーロッパ諸国で禁煙補助に使われている最古の薬物である。

シチシンはその分子構造がニコチンに類似しており、ニコチン受容体の部分作動薬として作用するが、異なった半減期と投薬の基準量を有する。それはニコチンがニコチン受容体と結合する事を防ぎ、タバコ使用が神経に与える報酬を抑制する。調査結果によると、シチシンは禁煙補助薬としての高い有効性を示しており、費用対効果も高く、安全である事が分かっている。

■世界レベルの禁煙補助剤に

WHO必須医薬品第23専門委員会によるとシチシンは「薬効があり、費用対効果が高く、安全で、購入に適した価格であり、利便性も高い」と評価されている。禁煙補助薬として臨床的及び経済的に有望で、世界レベルの禁煙補助として成長させることが可能で、特に中・低所得の国々の禁煙補助に活用することに適している。

日本禁煙学会は統計・調査に基づく禁煙補助の薬物の提供は有用であると強く信じている。喫煙者が禁煙する際の補助を与える事と受容可能な状況を提供する事は、総体的な喫煙規制を強化する事になり、効果的な禁煙補助は人命を救う。

日本禁煙学会はニコチン依存症としての禁煙補助薬としてシチシンのWHO必須医薬品モデル・リストへの追加登録を強く要請する。

本件のご考察に感謝致します。

【この手紙は、2024年10月に出されました】

好評！禁煙CMコンテスト

禁煙CMコンテスト審査委員長
作田 学

今回も約160もの多数のご応募をいただき、ありがとうございました。今年の入選作品もまたYou Tubeに公開いたします。

この「禁煙CMコンテスト」入選作品を色々な媒体に自由にお使い頂き、学校での教育などに広く役立てて頂ければ幸いです。

加熱式タバコの害が少ないとタバコ会社は宣伝していますが、これはまったくのウソです。加熱式タバコには、燃焼式タバコにはない、あるいは少ない、有害物質や発癌物質が多く含まれているのです。決して手を出さないでください。

燃焼式と加熱式を併用していると、肺疾患になりやすいというデータもあります。タバコは大麻などの麻薬へのゲートウェイ・ドラッグでもあります。タバコに手を出すと依存症になって一生タバコ代を支払いつづけ、その間に病気になり、半数の人は死亡します。

Que Sera Sera. Future is not ours, to see. But, Smoking future can be seen, heart attack, cancer and povertyです。

なんとか、この負の連鎖を止めましょう。詳しくは講評をお読みいただきたいと存じます。

この「禁煙CMコンテスト」は、来年も続けていきます。皆さまを、お待ちしております。

【さくた・まなぶ＝日本禁煙学会理事】

たくさんの応募に感謝

禁煙CMコンテスト審査委員 藤本 祥和

今年もおかげ様で多くの作品が集まりました。第1位「アナザーリスク」をはじめ、入賞作それぞれに魅力がありました。

昨年从今年にかけての全体の傾向としては、映像制作がしやすくなったことが感じられます。スマホで撮ってそのまま編集できる、フリーのイラストや動画素材を使用できるなど。その分「これは惜しい」「最後の詰めがもう少し丁寧だとよかったのに」という作品もありました。たとえば、「映像はいいけれどアイデアがもの足りない」「タバコの害を並べているだけ」「発想はいいのにまとまりがない」など。

せっかくのアイデアや労力を活かすために、ぜひ最後のまとめもひと手間かけていただければと思います。編集した段階で、家族や友人などに感想をもらうのもいいですね。

入賞した皆さん、おめでとうございました！

惜しかった皆さん、また機会あれば挑戦して下さい。たくさんのご応募に改めて感謝します。

【第1位】「アナザーリスク」

㈱ワールド・イズ・マイン（会社員／東京都）

喫煙所の順番待ちでイライラしている男性。そのままニコチン補給できず会議中もタバコのことで頭がいっぱいです。会議が終わるやいなや外に飛び出して喫煙所を探し歩く男性の運命は・・・？「おいおいっ」とツッコミたくなる極端なラストですが（笑）。現実の場面でもタバコで失うものはお金や健康だけではありません。「アナザーリスク」…喫煙習慣のリスクについて改めて考えなくなるCMでした。

第2位は4作品でした。（順不同）

【第2位】「禁煙は生きているうちに」

BANSEI FILMS（動画クリエイター／東京都）

長年の喫煙習慣の末亡くなった祖父が孫娘との別れへの後悔を滲ませながら語ります。生と死を隔てた祖父と孫娘の思いの交錯を描き「禁煙は、生きているうち」というメッセージに繋がりました。

【第2位】「吹かす」

やなぎ（専業主婦／熊本県）

何かイヤなことがあったのか、小雨のなか公園へと歩く女性。タバコのようなものを取り出して吸うと……。丁寧に作られた小道具がシンプルなアイデアを活かした、笑顔になれるCMです。

【第2位】「45分ルールって知ってますか？」

村瀬未咲他4名（学生／兵庫県）

三次喫煙はタバコを消した後に残留する化学物質を吸入すること。「45分ルール」を取り入れる自治体や企業もあります。手作り感あふれる動画で家庭での三次喫煙について伝えました。

【第2位】「NO SMOKINGキンエンマン」

キンエンマン（大学生／北海道）

タバコをやめた後もタバコの誘惑は続く。その戦いを「キンエンマン vs タバコマン」で表現しました。禁煙することは自分だけでなく周りの大切な人を守ることになります。

「禁煙は誰かを守るヒーロー」ですね。

第3位には10本が選ばれました。（順不同）

【第3位】「生活を巻く」

神田莉奈（学生／福井県）

「ナンテンの生春巻き」（ナンテンの花言葉は「幸せな家庭」）と「セイタカアワダチソウの紙巻き」（タバコのイメージ）をグラフィカルな表現で比較しました。同じ「巻く」ものでも生活は大きく違ってきますね。

—* 5 頁に続く —

—* 4頁からの続き—

【第3位】「一瞬の安らぎか、一生残る思い出か」

大阪府立西野田工科高校工業デザイン系
タバコが大好きなAくんと旅行が大好きなBくんの比較。1日一箱吸うと年間のタバコ代はおよそ20万円。「一瞬の安らぎか、一生残る思い出か」選択するのはあなたです。

【第3位】「とある二人分のレシート」

木村祐花里（会社員／東京都）

とある2人が2ヶ月過ごしたレシートを振り返ります。毎日タバコに500円費やす生活と彩り豊かに楽しむ生活と。笑顔になれるのはどっち？

【第3位】「たばこで命を落とした父への手紙」

50代の若さで亡くなったお父さんへの手紙。さまざまな逆境を生き抜いた父はしかし「愛煙家」でした。手紙の朗読だけでなく、バックに流れるピアノ曲の作曲・演奏も応募者ご本人とのこと。

【第3位】「禁煙（美肌編）」

伊井田雅子（主婦／東京都）

「禁煙したいからたばこをやめてバックに変えた」ストーリーをかわいいイラストで表現。カフェでも職場でも飲み会でも…（笑）ちょっとヘンだけど、たしかにこちらの方が健康的！

【第3位】「NO MORE 喫煙者」

バトルバ（お笑い作家／東京都）

映画館でおなじみ「NO MORE 映画泥棒」のパロディ。「禁煙」の表示がある場所で喫煙しようとする人の前に現れるタバコのキャラクターとそれを取り締まるパトカーの回転灯。

【第3位】「The Silent Killer」

Shin Design（アニメーター／京都市）

目覚ましい活躍で悪を倒した主人公ですがタバコのダメージには……。躍動感のあるアニメでタバコの怖さを訴えました。

【第3位】「家族とペットのために、禁煙を」

松本ゼミ（大学生／兵庫県）

動物の殺処分とペットの受動喫煙を重ね合わせて問題提起。CM内のCMやペットの演技など表現方法を工夫しました。

【第3位】「暗殺者たち」

白取飛羽・伊藤隆太（学生・北海道）

暗殺者たちが「今回のターゲット」の危険性について話し合っています。「人の心と身体を支配」し「依存させ逃げられなくする」巧みな奴とは…

【第3位】「未来と代える、その一本」

りじ（大学院生／茨城県）

お金がかからない不思議なタバコ自販機の話。購入者がお金の代わりに払うのは「1 Future」…

【ふじもと・よしかず＝ラジオディレクター／REBT心理士／キャリアコンサルタント。『笑って禁煙できる本』（白夜書房）著者】

阪神 秋季キャンプ全面禁煙へ —藤川新監督の大英断—

■来季からは甲子園でも

阪神の藤川球児新監督が、1日からの秋季キャンプ（安芸市）で、チーム活動時、および球団施設での禁煙を徹底する方針を打ち出した。安芸市の練習施設からは灰皿が撤去され、来季からは甲子園の喫煙所も廃止、ビジター球場でもチーム滞在中は禁煙となる。

私生活や遠征先の宿舎までは強制されないものの、ここまでタバコが徹底的に規制されるのは極めて異例のことだ。

しかし、プロ野球界の健康管理もやっと他のスポーツ並みにきたともいえる。パリ・オリンピック前に体操女子選手の喫煙が発覚、日本代表を辞任したことは記憶に新しい。

それに引き換え、プロ野球界では名選手や名監督と言われる人でさえ喫煙者が沢山存在する。球史に残る実績を誇り、健康に人一倍うるさい某OBも「タバコだけはやめられない」と言い切っているほどだ。模範たるべき大先輩がこれだから、スター選手も監督もベンチ裏で堂々と吸っていたりする。それをマネして若手選手や新人たちがブカブカやっている。

某球団の二軍コーチはこう嘆いた。「若い選手にはよく言うんです。ベテランが吸っているからといって、実績のないお前らが吸っていいことにはならない。昔と今では時代も環境も違う。少しでもいい成績を挙げて、1年でも1日でも長く野球をやりたいんならやめろ」、と。

■DeNAは10年以上前から禁煙推進

そうした中、阪神よりも10年以上早く“禁煙政策”に乗り出したのがDeNAだ。「球場内、練習場施設内は禁煙」とする方針を打ち出し、2012年以降に入団した新人の契約には「入団後1年間は禁煙を守る」という1項を加えた。これを甘く見た新人2人がフェニックス・リーグの期間中に喫煙していたことが分かったと、ただちに宮崎から横須賀の寮へ強制送還されている。

2014年には、背番号が50番台から1桁に昇格した選手が、成績不振を理由に「禁煙しなければ50番台に戻す」と球団に通達された。それくらいタバコには野球のパフォーマンスにも悪影響を与える、という認識がDeNAにはあるのだ。

ちなみに、日本ハムやロッテでも同様に禁煙が徹底されている。特にロッテの吉井監督は、個人的にも大変な嫌煙家だ。

新たに阪神が全面禁煙に乗り出したことで、他球団にどのような影響が広がるのか。非喫煙者は大歓迎だろうが、喫煙者の反発も気になる。

【yahooニュース（一部修正しました）】

未成年体操選手の五輪代表 辞退をめぐって

和歌山県桜ヶ丘病院医師 森岡 聖次

以下の記事は、自治医科大学医学部同窓会『医燈会』の会報 第110号(2024. 10. 15)に掲載されたものです。このほど森岡氏からお送り願いましたので、同氏のご了解を得て転載させて頂きました。

現在、パリ五輪が開催されている。ヒュー・ハドソン監督のアカデミー賞映画: Chariots of fire (邦題: 炎のランナー) は100年前のパリ五輪映画であったが、今回は日本人選手が大健闘であり、連日のメダルラッシュは喜ばしい。映画ではベン・クロス演じる英国選手に1924年当時には一般的ではなかったプロ・コーチを採用し、100mで勝ちきった史実に基づく話で感動を呼んだ。

ヴァンゲリスによるテーマ曲は、2016年のロンドン五輪でもヒューチャーされていた。

2024年の現実の100mでは、日本のサニブラウン・ハキムが9秒96の自己新で走りきったが、準決勝を突破できない高レベルの競技となった。識者が指摘するように彼は今後200mにも取り組み、100mの後半のパフォーマンスに活かす事にも意味があるだろう。

今大会では体操でも日本勢は大活躍している。女子チームのエースと思われた19歳が、合宿中の飲酒、喫煙のため、直前に代表辞退となった。

彼女抜きの4人は充分健闘したが、SNSではエース抜きのチーム編成に対して賛否両論が闘わされている。私は、未成年の飲酒、喫煙は断罪されるべきであり、今回の日本体操協会の判断は全く正しかったと考える。問題は、コーチが選手のプライバシーを管理できなかった点で、責任を感じるべきであろう。

一般論であるが、瞬発系のスポーツ選手の喫煙率は比較すれば高い。長距離や持久系種目で喫煙する選手は少ないが、気分転換やストレス管理のためだと判断して喫煙する例がある。

喫煙はニコチン依存が本態であり、諸外国では16歳以上は通常の喫煙率の統計になっている。

喫煙によりストレス管理ができると考えるのは幻影であり、喫煙のメリットはない。

今後の19歳エースの復活のために、ぜひ禁煙でニコチン依存から離脱し、体操競技へのいっそうの貢献を期待したい。

【もりおか・せいじ】

『日本の嫌煙権運動45年史』について

昨年、嫌煙権運動が45周年を迎えた機会に、この本の刊行の運びとなりました。この本は、タバコの煙に悩んでいる方々、「やめたい」と悩んでいる喫煙者にも、ぜひ読んで頂きたいと願っております。
※【後払いで、送料共2,000円でお送り致します。
FAX: 03-3222-6780 又は以下のメールアドレスでご注文ください。jsxcd626@ybb.ne.jp】

日本の嫌煙権運動 45 年史

——「きれいな空気を吸う権利」を求めて

渡辺文学 著

ISBN978-4-7634-2101-2 C0036
四六判並製 268 頁

タバコをめぐる光景を一変させた
嫌煙権運動、45 年の軌跡。

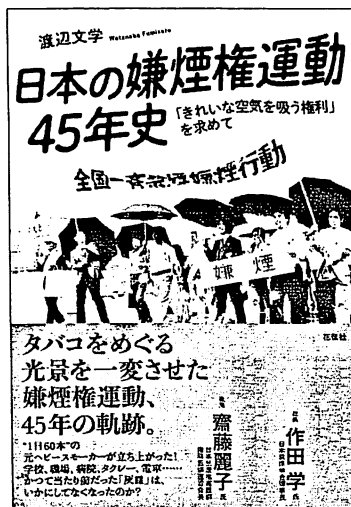
“1日60本”の元ヘビースモーカーが立ち上がった！
学校、職場、病院、タクシー、電車……
かつて当たり前だった「灰皿」は、
いかにしてなくなったのか？

推薦・作田学氏（日本禁煙学会理事）

受動喫煙を防止する運動は、まさに国民からわき起こった運動だった。
それをまとめ上げ、国民運動まで持ていった功績者が渡辺文学さんである。

推薦・齋藤麗子氏（日本禁煙推進医師歯科医師連盟会長）

我が国のタバコ問題の歴史書。全国のタバコ関連のイベントには
必ず文学さんの姿がありました。



定価：1980 円（税込）

発行・花伝社 発売・共栄書房
101-0065 東京都千代田区西神田2-5-11
☎03(3263)3813 FAX03(3239)8272
<https://www.kadensha.net>

《メディア・ウォッチング》

■10/19『日経』「たばこ3社 3.5兆円和解案」「カナダ裁判所 健康リスク巡り集団訴訟」。①PMIオルザックCEO。当社とその利害関係者が将来の事業に集中できるようになることを期待②JT「多くの分野で進展があったことを認識している」「実行可能な和解案を見出すには、重大な問題がある」、PMI「和解金をどのように負担するかは未解決④消費者が原告の集団訴訟。訴訟理由「健康リスクについて十分な説明をせずに販売」⑤PMI「（和解が成立すれば）カナダで係争中のたばこ訴訟がすべて終結」⑥禁煙推進団体など3団体「医療制度への多大な負担を引き起こした企業が、集団訴訟の歴史的敗訴から逃れることが許されるのか」といった内容■10/30『日経』「がん社会を診る」(中川恵一東大特任教授)「がんを知り、まずは検診」。①11/5発売の新刊『養老先生ががんになる』(中川氏と養老氏の共著)の紹介②定期的ながん検診の必要性③養老氏のがんは喫煙で増えるタイプの肺がん④養老氏は「病院嫌い」で、がん検診も受けたことがない⑤治療可能な段階で見つけることができたものの、たまたまラッキーだった⑥がんで命を落とさないための最大の秘訣は「がんを知ること」。「喫煙しつつタバコ擁護の論陣を張ったのが養老氏」な〜〜〜んて書かれているのかしらん、と一瞬思ったがハテ気になる方はぜひお買い求めください(笑)■11/4『毎日』[月議]「たばこで揺れた論文」(下桐実雅子記者)。①医学誌・BMJが10年前に「たばこ業界からの資金で研究した論文は受け付けない」という方針を決定②資金提供を受けた場合はその旨を明示する、という原則から見てBMJの方針は強硬な姿勢③今年、BMJ系列の医学論文でたばこ会社との関係で問題視される事態が起きた④著者の一人である大学教授に米BMJから研究資金が渡っていたが、説明がなかった⑤共著者は論文の撤回を申し出た⑥BMJは事実を追記する修正で対応⑦最近、日本の癌学会が、喫煙関連団体から助成金を受けている会員の学会誌や総会での研究発表を認めないとした。国のたばこ対策の遅れに加担しているとみなされないためには、自律性を高めなければ、といった内容■11/6『日経』「がん社会を診る」(中川恵一東大特任教授)「がんへの考え、診断受け変化」。①恩師の養老先生は3か月ごとに東大病院で定期検診、今年4月肺がんを発見②氏の肺がんは喫煙者に多い小細胞がん③このがんは増殖のスピードが速く、転移や再発をしやすい④氏はヘビースモーカーとして知られる⑤治療は抗がん剤と放射線⑥以前の氏は抗がん剤に否定的だったが「標準治療」を選択⑦抗がん剤に否定的な意見を持つ人は『養老先生ががんになる』が認識を改めるきっかけになるかも、といった内容。■11/7『産経』「欧州たばこ規制強化」「寛容国追随、業界は牽制」。①欧州でたばこ規制の動きが広がっている②寛容国スイスも、購入に年齢制限を設ける③アイルランドがさらに規制強化④EU欧州委員会が9月、禁煙エリアを屋外の遊園

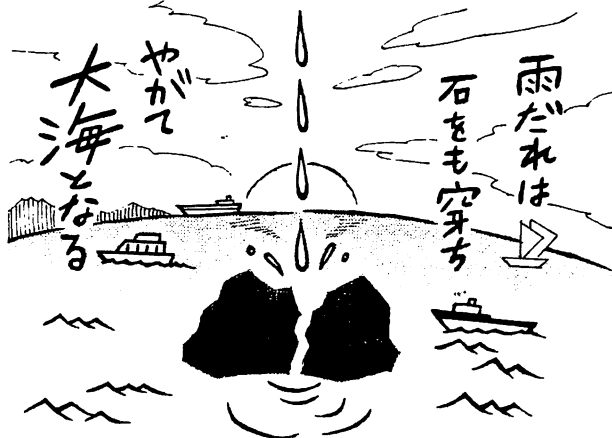
地やプールなどに拡大するよう加盟国に提案④英国のスターマー政権も7月、たばこ購入年齢を引き上げる方針を提示⑤スイスはFCTCさえ批准していない。欧州で他に残る未批准国はモナコなど。その背景は「タバコ農家の強烈なロビー活動③たばこ業界による政策干渉指数が高い国のトップはドミニカ共和国。2位はスイスで3位は日本④スイスには「JTインターナショナル」があるほか、米PMや英BATも拠点を構える⑤JTは「どれが合法なのかを消費者が見分けられなくなる上、若者の喫煙を減らす目的も遂げられない」と強調■11/7『読売』(投書)「63円切手復活を」(渡辺文学)。①たばこ問題の月刊誌を発行、第3種の認可を受けている②料金は据え置きなのに63円の切手が廃止③63円切手を復活してほしいといった内容■11/7『日本海新聞』「受動喫煙防止の機運高める」「米子で禁煙学会学術総会」。11/16・17日に開催された第18回日本禁煙学会学術総会の内容を紹介■11/16『産経』「ハームリダクションを考える」。①加熱式たばこの増税方針が示された②“狙い撃ち”される構図は発泡酒や第三のビールを巡る増税の歴史と同じで「企業の開発意欲に悪影響を与えかねない」③紙巻よりも害が少ないなどと紹介。現行課税方式や増税に疑問を投げかける構成■11/18『神奈川新聞』(投書)「たばこ祭りで亡き弟をしのぶ」。①老舗の料亭旅館を継いだ弟は秦野たばこ祭りに初回から参加②道路拡張のため解体後移転、再建③弟は今年7月に急死、9月のたばこ祭りには追悼コーナーが設けられ、多くの友人が弟をしのんだ。「たばこ祭り」が4回登場したほか「秦野たばこ音頭」など、タバコづくめ(笑)■11/19『朝日』「加熱式たばこでも高血圧リスク」。①産業医らで作る研究グループが国際誌に「高血圧の予防に関して、加熱式は紙巻よりリスクが低いとは言えない」という研究結果が掲載された②研究は、高血圧ではない約3万人の健康診断データを用いて実施。たばこを吸う習慣のほか、血圧にかかわる食や運動の習慣を尋ね、その後を平均2.6年間追跡③研究チームの溝上哲也・国立国際医療研究センター部長「少なくとも血圧への影響に関しては、加熱式の有害性が紙巻よりも大幅に低いということはなさそうだ」④過去には、加熱式の喫煙者は聴力低下や高血糖などの割合が高い、との報告もある、といった内容■11/14『東京』(投書)「ドラマで喫煙シーンNO」。①最近、テレビドラマでは喫煙シーンが増えていると感じる②電子たばこについては、未成年者が興味を持つのではないかと③たばこCMもなくなり、喫煙シーンも減っていたが、この増加はたばこ業界の巻き返しなのか④業界とテレビ局で何らかの裏取引がなされているような気がする⑤厚労省は黙認か③喫煙シーンは「百害あって一利なし」、肝に銘じてほしいといった内容。投書者は元小学校長で、さすがに問題の核心を「歯に衣着せず」のトーンで主張。最近にない優れモノ(笑)。【水飽健一郎】

展望台

◆今年もうすぐ終わる。物事の全てに終わりはある。大好きな朝ドラ『虎に翼』も終わってしまった。最終回の直前、主人公・寅子は「今、私は法とは船のようなものなのかなと思っています。人が人らしくあるための、尊厳や権利を運ぶ船。社会という激流に飲み込まれないための船。船の使い方は乗り手次第。人らしさを失い沈むことも、誰かを沈めることも、間違ふこともある。人生という船旅を、快適に幸せに終えるために、乗り手の私たちは船を改造したり、修繕したりしながら進む。まあ、明日にはまた違うことを言っているかもしれませんが。生い立ちや、信念や、恰好、男か女か、それ以外か、すべての人が快適でいられる船にするよう、法を司る者として、不断の努力を続けていきます」と語る◆しかし最高裁長官を定年退任していた桂場は「今でもご婦人が法律を学ぶことには反対だ」と返す。「法を知れば知るほどご婦人たちはこの社会が不平等でいびつでおかしいことに気づき苦しむ。そんな社会に異を唱えて何か動いたとしても社会は動かないし変わらない」と言うのだ。この返事が私には、禁煙推進活動をしている人への言葉のようにも聞こえた。しかし、寅子は言う。「今、変わらなくても、その声がいつか何かを変えるかもしれない」◆45年前、タバコに汚された空気を吸われないことを求めて立ち上がった人々がいた。「嫌煙権訴訟」等、苦難の連続だったと思う。多くの人々が既に亡くなっている。だがその人たちが声を上げてくれたおかげで、少しずつ喫煙規制が進んできた◆寅子がかつて恩師に「先生に雨だれの一滴なんて言ってほしくない」と言ったことがあったが、最終回では桂場に「未来の人たちのために、自ら雨だれを選ぶことは苦ではありません。むしろ至極光栄です」と言う。嫌煙権運動に身を投じた人々も、自ら雨だ

れを、地獄の道を選んだ人たちだっただろう◆桂場は、「それは君が佐田寅子だからだ。君のように血が流れていようと、その地獄に喜ぶ物好きはほんのわずかだ」と返す。嫌煙・禁煙運動に携わってきた人々も、ほんの僅かな特別な人たちであったかもしれない。しかし、確かに存在した◆私が喫煙問題に関心を持つようになってから10年経つが、禁煙運動をする人は今でも限られた人たちのように感じる。自分がタバコに異を唱えても社会は動かないし変わらない。自分が苦しんだり面倒なことをやらなくても、誰か特別な人たちがやってくれて、そのうち社会は変わっていくだろう、と傍観を決め込む人がほとんどだ◆だが法が「尊厳や権利を運ぶ船」であるならば、オールを人任せにはしてはいけない。この船の行き先は未来だ。未来の人たちもこの船に乗る。平山雄博士のオールも、安井幸一氏のオールも、誰かに引き継がれている。苦労ばかりで見返りのない雨だれのような私たちの活動も、きっと未来へと繋がっていく◆タバコの無い社会を目指す船の漕ぎ手は多いほど、時期尚早の壁を乗り越え、ゴールへと近づく。その戦いに終わりは無い。

【斉藤 由美】



【雑記帳】 大谷選手が MVP に選ばれました。2年続けて、二つのリーグでは史上初の快挙でした。アメリカの大リーグが始まったのが 1876 年ですから、148 年の歴史の中で、50-50（ホームラン 50 本・盗塁 50）を達成したのは大谷選手だけという記録や DH での受賞も初めてという、これまでの数多くの歴史を塗り替える、これはトンデモない数字でした。来シーズンは、投手としての活躍が想定されており、期待が高まるばかりです◆日本禁煙学会の第 18 回学術総会が、米子駅前のコンベンションセンターで 11 月 16/17 の両日、5 年ぶりでリアル開催されました。長谷川純一大会長とスタッフの皆さんの努力で「受動喫煙を無くしたい」というメインタイトルに従って、数多くの報告がなされ、特に今回は「加熱式タバコ」の有害性について報告が数多くなされました。また、「イエローグリーンキャンペーン」については、福島の前田道也氏や、山形の川合厚子氏、熊本の橋本洋一郎氏からそれぞれの県における取り組みが紹介され、来年は、さらに全国的な取

組みの機運が盛り上がったと思います◆16 日の夜はワシントンホテルで「懇親会」が。美味しいお酒と料理、そしてアトラクションでは、世界的に活躍されてきた MALTA 氏の素晴らしいアルトサックス演奏が会場を沸かせました◆この米子の往復は JR でした。東京ー岡山は新幹線「ひかり」号で約 4 時間、岡山ー米子は伯備線で 2 時間という乗車時間でしたが、長旅大好きな私は、山崎豊子氏の『沈まぬ太陽』を読んだり、居眠りをして少しも退屈しませんでした。往復 12 時間も列車に揺られたのは、何十年ぶりだったでしょうか◆昨年から月に 3 本ほど映画を観ています。本編が始まる前に、最近「豊かさってなんだ！」という JT のイメージ広告があり、これは完全に FCTC に違反していますね。(文)